臨床検査に関するお知らせ

株式会社セントラル医学検査研究所
TEL（本社）029-225-8858 （下館）0296-28-5900

先生各位

平成 30 年 9 月
A-18-14

検査内容変更のお知らせ

拝啓　時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
また、平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
この度、下記検査項目におきまして、検査の内容を変更させて頂きたくご案内致します。
何卒ご了承賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

敬具

記

◆ 実施日　　平成 30 年 9 月 29 日（土）ご依頼分より

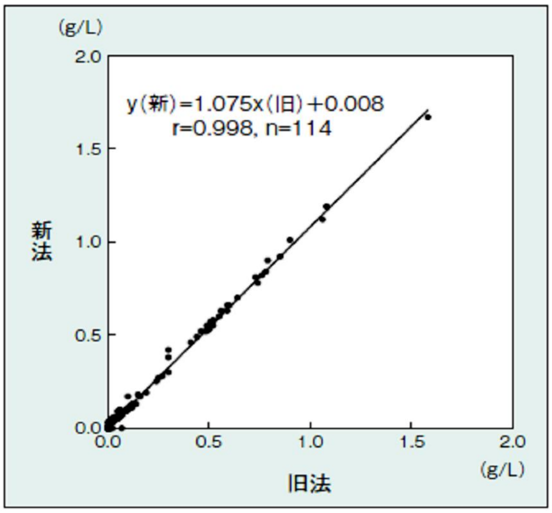
◆ 変更内容

2018･19 年検査案内	項目コード	検査項目	変更箇所	新	旧	備考
p.9	1170	亜鉛（Zn）［血清］	基準値	80～130 μg/dL	64～111 μg/dL	日本臨床栄養学会『亜鉛欠乏症の診療指針 2018』亜鉛欠乏症診断基準に準拠。 ※
p.58	21750 21755	マンデル酸（スチレン） マンデル酸（エチルベンゼン）	検査方法	LC-MS	HPLC	新旧相関は良好。その他検査要項の変更なし。

※ 詳細は裏面をご参照下さい。

●●● マンデル酸（スチレン、エチルベンゼン） ●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

◆新旧相関図



（LSI メディエンス検査内容変更のお知らせより）

亜鉛(Zn)-〔血清〕

亜鉛欠乏症に関して、日本臨床栄養学会から『亜鉛欠乏症の診療指針 2018』にて、亜鉛欠乏症の診療指針が示されました。その中で血清亜鉛の基準値が 80～130μg/dL と示されました。

また、同ガイドラインの中で、亜鉛欠乏症の診断指針も示されていますので、ご紹介致します。

要旨　亜鉛欠乏の診断指針

亜鉛欠乏症は、亜鉛欠乏の臨床症状と血清亜鉛値によって診断される。表に亜鉛欠乏症の診断基準を示す。亜鉛欠乏症の症状があり、血清亜鉛値が亜鉛欠乏または潜在性亜鉛欠乏であれば、亜鉛を投与して、症状の改善を確認することが推奨される。

１．下記の症状 ／ 検査所見のうち１項目以上を満たす
　1）臨床症状・所見 … 皮膚炎、口内炎、脱毛症、褥瘡（難治性）、食欲低下、発育障害（小児で体重増加不良、低身長）、性腺機能不全、易感染性、味覚障害、貧血、不妊症
　2）検査所見 … 血清アルカリホスファターゼ（ALP）低値
　　注：肝疾患、骨粗しょう症、慢性腎不全、糖尿病、うっ血性心不全などでは亜鉛欠乏であっても低値を示さない事がある。
２．上記症状の原因となる他の疾患が否定される
３．血清亜鉛値　3-1：60μg/dL 未満：亜鉛欠乏症
　　　　　　　　3-2：60～80μg/dL 未満：潜在性亜鉛欠乏
　　　　　　　　血清亜鉛は、早朝空腹時に測定することが望ましい
４．亜鉛を補充することにより症状が改善する

Probable	亜鉛補充前に1、2、3を満たすもの。亜鉛補充の適応になる。
Definite （確定診断）	上記項目の 1、2、3-1、4をすべて満たす場合を亜鉛欠乏症と診断する。 上記項目の 1、2、3-2、4をすべて満たす場合を潜在性亜鉛欠乏症と診断する。

日本臨床栄養学会ホームページ「亜鉛欠乏症の診療指針 2018」(p.3)（http://www.jscn.gr.jp/pdf/aen20180402.pdf）より抜粋